

中国・四国中国帰国者支援・交流センター  
社会福祉法人 広島県社会福祉協議会  
〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2  
TEL 082-250-0210  
FAX 082-254-2464  
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

# 七色花

## 広島市歯科衛生相談説明会

6月7日(月)中国帰国者支援・交流センターで歯科衛生に関する相談説明会を開き、19人が参加しました。歯周病予防や入れ歯の手入れの方法、日頃の手入れを怠ると口の中がどのようになるかなど、実際の写真を見ながら歯科医師の説明を聞きました。日頃、歯科医院ではなかなか聞けないことも中国語で質問でき、痛くもない歯を抜かれた体験を話す帰国者もいました。



## 愛媛県ボランティア研修会

6月13日(日)松山市でボランティア研修会を開きました。帰国者1世の中川さん、2世の久米さんが体験を語り、支援・相談員の三瀬さんが帰国を手助けた残留孤児について話しました。参加については一般市民にも広く呼びかけをしましたが、関係者が大半でした。世間の残留孤児に対する関心が薄れる中、どのように支援の輪を広げていくかなどの課題が浮き彫りになりました。



## 高知県帰国者陶芸教室

6月25日(金)高知市で中国帰国者のための陶芸教室を開きました。当日は大雨にもかかわらず、20人の帰国者が集まりました。陶芸は全員初めてでしたが、講師の指導のもと、名前を彫ったり、飾りをつけたり…、沢山の個性あふれる作品ができました。参加者の作品はこれから、乾燥して焼き、上薬をつけて更に焼きます。どのように焼きあがるか、2ヵ月後が楽しみです。



## 中四国ブロック 中国帰国者支援機関連絡会

7月9日(金)中国・四国ブロックの帰国者を担当する行政関係者がセンターに集まり、支援について話し合いました。平成20年度の新支援策開始以降、支援が充実してきた地域もあれば、事業が滞っている地域もあるなど、支援に地域格差が生まれている事が明らかになりました。定着した土地で、充実した支援が受けられるよう、今後の課題を確認しました。



## 広島市社会見学交流会

7月12日(月)広島市で社会見学交流会を行い、センターの受講生31人が参加しました。まず、広島原爆資料館で行われている写真展を見学し、その後、NHK広島放送局を見学しました。戦後の復興をテーマとした写真展では、遺骨を捜す母親の写真の前で涙ぐむ参加者も見られました。NHKでは、3D画像体験やアナウンサー体験をし、テレビを身近に感じることができました。



## 福山市歯科衛生相談説明会

7月25日(日)広島県福山市で歯科衛生相談説明会を開きました。歯科衛生士の指導のもと、歯垢チェックをし、正しい磨き方、虫歯予防に効果的な唾液腺マッサージを習いました。1つの歯が悪くなることによって、他の歯にどんな影響があるか、それが体全体にどう影響するかなどのお話を聞き、歯を大切にすることの意義を再確認しました。「80歳で自分の歯20本」を目指して、毎日歯磨き、頑張りましょう。



## 投稿

高知市にお住まいの福沢俊傑さんから、投稿をいただきました。

### 端午の節句

旧暦5月5日は中国の伝統行事、端午の節句、またの名を“重五”。東北地方では、朝日とともに路地を売り歩く蓬売りの声が、この日が来たことを知らせてくれる。蓬は、戸口に飾ると邪気を払い、一緒に煮付けた赤卵を食べれば病気を防ぐと信じられている。またチマキを食べることも習慣になっている。作り方は南北で異なる。北ではもち米にナツメを入れ、甘い後味が口に広がる。南では、下味を付けた肉を入れる。風味は増すが、しつこくはない。味は南北それぞれ。端午の節句の風習は何千年も前から伝承され、今もなお受け継がれている。

端午の節句は偉大な愛国詩人屈原を記念するもの。屈原は戦国時代の楚国人、売国奴との罪を着せられ、地位を追われ、追放された。このような境遇にあっても忠誠心を失わず、秦によって楚が滅びると、尽くすべき祖国を失ったとの失意を抱いて、汨羅江に身を投げた。後世の人々は屈原を祭るため、その命日を端午の節句と決め、その日にはチマキを汨羅江に投げたり、龍舟競争の祭典を行ったりしている。

端午の端には「初」の意味があり、「端午」は毎月あるものだが、節句としての祝いは年に一度。この風習は帰国者たちとともに日本へ渡り、高知の帰国者も毎年、チマキを作ったり、赤卵を煮たりする。日本にも端午の節句があるが、おそらく長い日中の文化交流に端を発するものだろう。



### 足摺岬の旅

平成22年5月20日、9時出発。前回の広島旅行と同じ仲間での旅。車3台、9人。途中、道の駅で休憩した。4時間かけて足摺岬に到着、三十八番金剛福寺に参拝した。木陰で昼食、手作りのお弁当は、味もいろいろで、家計にも優しい。更に車を走らせて、滝串海岸に到着。宿を探すと「ホテル南国」を発見。ホテルの前の駐車場車をとめて、ホテルの支配人と交渉し、なんと1泊2食付で1人6千円！夕食では支配人と日本語で交流。笑いも交えながら、言いたいことも言え、相手の言う事も分かった。習った日本語の実践ができて嬉しかった。荷物を部屋に置いて、海岸を散歩。大自然、神の業による海岸線、滑らかで太く長い岩が海に向かって伸びている。海に入ろうとする力強い蒼龍のようにも、岸に押し寄せる鯨のようにも見える。不思議な景色を前に、ため息が出た。翌日、海洋館と海底館を訪問した。特色ある海の神秘にせまる展示物。来た価値があった。その後、宿毛市の三十九番延光寺に参拝。神水で目を洗った。帰路、道の駅で新鮮な野菜を買って、無事に我が家に到着。旅は実り多く、興味は尽きなかった。平成22年5月23日



## 8月・9月の予定

- 8月8日 異文化交流会 盆踊り〔広島市〕
- 8月22日 南岩国地域帰国者教室〔山口県岩国市〕
- 9月9・10日 中国・四国ブロック支援者研修会〔広島市〕
- 9月19日 介護制度相談説明会〔岡山市〕
- 9月15日 東広島市社会見学交流会〔広島県東広島市〕
- 9月28日 広島県企業見学交流会〔広島市〕

※梨狩りを予定しています。参加希望者はセンターまでご連絡を。



## お知らせ

センターでは12月に大阪定着促進センター出身者を対象とした大阪訪問を計画しています。中四国9県にお住まいの帰国者で興味のある人はセンターにご連絡下さい。

## 投稿募集

みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありま〜す、など何でもかまいません。あなたも「七色花」に記事を書いてみませんか？原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。

みなさまからの記事をお待ちしています。

## 編集後記

昔、私が住んでいた国は、北緯10度で、夏になると、影は自分の南に出来ていました。その前に住んでいた国は、赤道を挟んでちょうど日本の反対側だったので、影はいつも南に出ていました。日本の国土は北回帰線より北に位置するため、影が南に出来ることはありません。そこに住んでいると当たり前ですが、実は当たり前ではない……夏、影が濃くなると、そんなことを思い出します。(橋本)



第19号

平成 22 年 8 月 1 日 发行  
(双月发行/年 6 回)

【发行者】

中国・四国中国归国者支援・交流中心

社会福祉法人 广岛县社会福祉协议会  
〒732-0816 广岛市南区比治山本町 12-2  
TEL 082-250-0210  
FAX 082-254-2464  
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp



## 广岛市牙齿卫生保健咨询说明会

6月7日(周一)在中国归国者支援・交流中心举办了有关口腔卫生知识的咨询说明会,由牙科大夫向大家介绍了如何预防牙周炎以及假牙的护理方式。由于平时不注意口腔卫生,所导致的不良结果,通过实际的图像进行了讲解说明。日常,无法问医生的一些疑问也借机得到了解决。在会上还听到,有的归国者由于语言不通,以前被拔错了牙的亲身经历。



## 爱媛县志愿者研修会



6月13日(周日)在爱媛县松山市召开了本年度的志愿者研修会。1代归国者中川先生和2代归国者久米先生分别讲述了自己的经历,之后由支援・咨询员的三濑先生介绍了自己多年支援归国者方面的工作经验。在会议准备期间,就关注归国者问题,曾不断的向社会发出了广泛的呼吁,即使如此当天的与会者多数为相关机关人员。看到对残留遗孤较为冷漠的社会环境,使我们更为深刻的认识到扩大支援队伍的难度。

## 高知县归国者陶艺教室



6月25日(周五)在高知市举办了中国归国者陶艺教室。当天虽然下着大雨,还是有20名参加者专程赶来。初次体验陶艺的各位归国者,在老师的指导下,有的在作品上刻上自己的名字,有的加上装饰...想必烘烤后,一件件作品都是富有个人特色的精品。各位的作品首先经过干燥、烘烤,之后上釉药再烘烤。最终结果要等两个月后才能见分晓。



## 中四国地区中国归国者支援机关联络会



7月9日(周五)集中国・四国地区中国归国者工作行政担当工作人员于中心,共同讨论了归国者支援问题。随着平成20年度新支援政策的开始,自此有的地区加强了对归国者的支援,仍然也有停滞不前的地区,所以,可以明显的感到随着所在地区的不同,支援的温度差也有所不同。如何在归国定居的地区,接受充分的支援应该说是今后的一个重要课题。

## 广岛市社会观摩交流会

7月12日(周一)在广岛市举办了社会观摩交流会,中心的学员共计31人参加了本次活动。首先,在广岛原爆资料馆参观了摄影展,之后,观摩了NHK广岛放送局。在以战后复兴为主题的摄影展上,面对母亲寻找遗骨的照片不少归国者留下了眼泪。在NHK电视台,既观赏了三维立体影像,还尝试了一回播音员体验,加深了大家对电视的概念。



## 福山市牙齿卫生保健咨询说明会



7月25日(周日)于广岛县福山市举办了牙齿卫生保健咨询说明会。在齿科卫生士的指导下,测试了牙齿上残余的污垢,学习了正确的刷牙方法以及有效预防龋齿的唾液腺按摩。听了1颗牙齿的病变对其他牙齿产生的影响以及对全身产生的影响后,让大家重新审视了牙齿的重要性。以「过了80岁还有20颗自己的牙齿」为目标,每天认真刷牙,大家一起来努力!

## 投稿

下面的文稿来自高知市的福泽俊杰先生。

### 话端午

旧历五月初五,是中国的传统节日—端午节,又为重五。在北方,大清早,走街串巷卖艾蒿的叫卖声,冲击着晨曦,报晓端午节的到来,买几把艾蒿插在门框上,辟瘟祛邪,吃艾蒿煮的红皮蛋,免灾去病,端午节吃粽子已成为习俗。粽子分南北,北方粽子用粘米(糯米),放入大枣,红枣甘甜回味。南方粽子则加入调制好的肉品,香而不腻。南北风味各异。这种民风习俗已传承了几千年,经久不衰。端午节是纪念伟大诗人爱国者屈原的节日,屈原是战国时楚国人,因被奸人诬陷,遭贬逐放,但爱国之心不变。当得知楚国被秦国所灭,报国无门,含恨投汨罗江而亡。端午节就是后人为其祭典之日,投粽子于汨罗江,举行赛龙舟等各种祭典活动。其实端午的端字,就是初的意思,每月都有端午,但是端午节只有一个。端午的习俗也被归国者带到了日本,高知的归国者年年都要包粽子煮红蛋。日本也有端午之说,这也许是中文化交流源远流长的起源吧。



### 足摺岬之旅

平成22年5月20日九时出发,这是继上次广岛之行后又一次观光旅游。自驾车三台九人同行。路经道の驿小休。近四小时到足摺岬展望台,参拜了三十八番金刚福寺。午餐在树荫下,是各家自做的面食小菜,各有风味,省钱又可口。又驱车前往龙串海岸,到达后,首先找到住宿处,就近一家“ホテル南国”,前有停车场,入店与店主商谈,讨价还价,双人房间晚早餐、浴池等俱全,谈妥每人六千日元,席间众人与店主日语交流,谈笑风生,谈者明,听者懂,也检验了所学日语在实践中的应用,うれしい。放好行李,大家步行来到龙串海岸,大自然的鬼斧神工,造就了奇特的海岸景观,条条圆滑粗大的长岩,都伸向大海,似苍龙入海,象巨鲸拍岸,千奇百怪,叹为观止,海洋馆,海底馆,各有千秋,展示着大海的奥秘。都深感不虚此行,经宿毛市,又参拜了三十九番延光寺,取神水洗眼。一路回返,经道の驿买便宜鲜菜,平安到来,大有兴致未尽之意。  
平成22年5月23日



## 8月・9月预定

- 8月8日 异文化交流会 孟兰盆舞会〔广岛市〕
  - 8月22日 南岩国地区归国者教室〔山口县岩国市〕
  - 9月9-10日 中国・四国地区支援者研修会〔广岛市〕
  - 9月19日 介护制度咨询说明会〔冈山市〕
  - 9月15日 东广岛市社会观摩交流会〔广岛县东广岛市〕
  - 9月28日 广岛县企业参观学习・交流会〔广岛市〕
- ※本次计划去梨园摘梨,希望参加者请与中心联系



## 通知

中心计划于12月以大阪定着促进中心毕业生为对象,去大阪进行访问交流会。中四国9县的归国者如有兴趣者请直接与中心联系。

## 征集投稿

向大家征集稿件。内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?原稿的字数限400字以内,投稿方式可以是直接送到中心,或者是邮寄、传真均可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

## 编辑后记

以前曾经在海外居住过一段时间,这个国家位于北纬10度。每逢夏季,地面上的影子会由南出现。在这之前滞留的国家,正好隔着赤道与日本相对,这里的影子也是由南出现。日本国土位于北回归线偏北所在。因此,影子也就不会从南出现。在一处长住后,有些事就会觉得理所当然,其实不然...每当夏影渐深时,不由忆起往昔。(桥本)